

平成 27 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272400680		
法人名	有限会社 ルーツ		
事業所名	グループホーム 泉の里		
所在地	〒037-0301 青森県北津軽郡中泊町大字今泉字神山141		
自己評価作成日	平成27年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成27年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域のイベントへ積極的に参加したり、訪問出店・理美容の利用など地域との関わり、繋がりを大切にしています。事業所の夏祭りは地元の行事として根付き、沢山の方々に来場して頂いております。食事については、入居者の希望や季節の食材、職員の意見を取り入れたりと、常に見直しを行う事で「食を楽しむ」となって頂けるよう工夫しています。また、天然かけ流しの温泉入浴も心身を癒してくれています。職員は、日々目標を持つ事やBST活動等、情報を共有する事で向上意欲を高め、理念・年次目標を念頭に「一人ひとりにより添ったケア」を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

広い敷地にホテルの様な外観の事業所であり、内部もたっぷりとスペースをとった窓から採光も明るく、入居者の過ごすホールには流水の設備もあり、癒しの空間となっている。職員は理念「あなたらしさお守りします・・・」を大事に、ことある毎に「自分が入居者様の立場だったら」と考えてケアを行っている。職員を見守る経営者や管理者も話し合いの時間を十分にとり、チームワーク良く相互の信頼関係を築いている。地域との繋がりが魚や野菜の差し入れがあり、夏まつり際にはいただいたマグロで解体ショーを行う等、交流が活発である。食事も出汁から作るラーメンや刺身など嗜好に合ったメニューで提供され、午後は天然温泉に入浴し夜間の安眠に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あなたらしさお守りします これまでの暮らしに敬意をこれからの暮らしに希望を」の運営理念のもと、暮らしなれた地域の中で、自分らしく安心した生活が送れるようにと常に考え、迷い悩んだ時は理念を思い返し、一人ひとりに寄り添ったケアの実践に取り組んでいる。	開設当初からの理念で、何度か見直しも行ってきたが、ベストな理念であると職員全員が考えている。理念を基に毎年新しく年次目標を掲げ、自分らしさやこれまでの生活歴を大切にケアを常に考えている。ケアに悩んだ時は、理念を基に職員間で話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の商店や理・美容院の利用、デイサービスの利用者との交流を日常的に行なっている。町内のイベントや賽の河原大祭への参加、夏祭り、町内清掃活動を行っている。	地域在住の職員が多いので交流も盛んであり、地域の商店が事業所内で移動売店を開くなど、日頃から交流しやすい環境作りを行っている。夏祭りは近所の方からいただいたマグロで解体ショーや盆踊りなど、地域の方の参加も多く盛況である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、職員が研修で学んできた認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族、地域住民、地域包括支援センター、行政の職員が会議に参加している。今年は開設12年を迎え、入居さんの入れ替わりが多くありました。重度化していたユニットから、どのように支援方法を変えていくかなど、アドバイスを頂きながら今後もサービスの向上に活かしていきたい。	2ヶ月毎に開催される運営推進会議の内容は、翌朝に経営者から説明し、さらに職員会議の場でも報告し、周知徹底している。実際に会議で地域包括支援センターや駐在さんからアドバイスをいただき、徘徊ネットワーク作りに取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	課題が発生した場合には、都度相談し方向性の指導を頂いている。多様化するニーズに対応する為、短期利用のサービス開始に向け、行政に相談し実現する事が出来ている。運営推進会議での関係性、雰囲気もよく相談できる場となっている。	地域包括支援センターからアドバイスをいただいたり、町役場の福祉課から短期入所利用や困難事例の相談がある。運営推進会議の他にも、日頃から市町村や地域包括支援センターとのネットワークはできており、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や勉強会で身体拘束について学んでいる。緊急やむをえず行動の制限が必要となった場合には、主治医の指示のもと最小限度のものとし、家族の理解と協力を得ながら速やかに解除出来る様に勤める方針で、カンファレンス・生活記録の中に詳細に記録する。玄関の施錠に関して必要最低限とし、徘徊により離脱する可能性がある方について、駐在所に徘徊ネットワーク情報として提出できるような準備を行っている。	身体拘束については入居時と最小限必要になった時に、文書で説明し承諾いただいている。開設以来過去に1回だけ事例があったが、現在は無い。壁紙を異食する入居者に対しては、壁を紙から木製にし、ハード面を変更するなどのケアの工夫を行っている。随時、拘束しないケア方法を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の朝礼や定例会、勉強会で「身体的虐待・声掛け・言葉遣い」について常に話題とし、週間の目標に取り入れたり入居者の尊厳を第一に、日々のケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターや社協の方に勉強会を依頼したり、外部研修に参加し学ぶ機会を持つ事が出来た。現在制度を利用に向けて関係機関と連携を図り支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点など、話しやすい環境作り心がけ、懇切丁寧に対応している。契約に変更があった際には文書で通達し同意も得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	嗜好調査や普段の会話を通して、意見や要望をお聞きし、食事のメニューの改善など運営に直接活かしている。入居者、家族には運営推進会議に参加して頂いている。受診前後は家族に連絡し、意向を確認している。また、退居前には家族の思いや今後の方向性について個別に話す機会の場を設けている。	入居者に嗜好調査を行い、メニューに反映させている。経営者自ら「だし」とった本格的ラーメン、カレーやハンバーグなど、好きな食事やおやつが提供されている。入居者は職員には話さないことでも家族には話す傾向があるので、面会の帰り時に家族に話し掛けて、本人や家族の意向を引出している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼や、毎月の定例会、BST生活向上委員会で意見交換を行なっている。職員の意見・気づき・アイデアを聞き、提案のあったものは蜜に話し合いが行なわれ、代表者が難しいと考えるような内容であっても、現場からの「頑張れる」という意見を特に尊重し決定となっている。	毎朝の朝礼や職員会議、その他にも随時話合っており、管理者にも話しやすい環境である。また、実際に要介護5の方の入居時には、十分に協議した上で、職員の意見を尊重して受け入れを決めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は積極的に会話する機会を持ち、個々の状況を把握し、勤務形態や時間を考え対応している。特に職員が子供の行事に参加できるように配慮をされており、働きながら子育てが出来るような環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量や経験に応じ、内外部への研修の参加が出来ている。BST生活向上委員会では、多職種の職員と一緒に学び『気づき』の向上となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム交流会(3ヶ月に1回)を開催し、地域のグループホーム全体で、サービスの質の向上に取り組んでいる。また、地域ケア運営会議、地域ケア推進会議への参加をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネや家族と協力しながら、事前面談で不安や要望、心身の状態の把握に努め、本人の言葉に耳を傾け、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込の段階から、心配事や要望を聞く時間を設け、いつでも相談できる環境、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何かを必要としているかを見極め、十分に話し合いし対応している。必要に応じては、各関係機関との連携を図っている。入居者の代弁者として支援内容の優先順位を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場で得意分野を引き出しながら、時には教わりながら、共に支え合っている。そして、自然に「ありがとう」と思い合える関係を目標にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの情報や気づき、入居者の思いを共有し、受診の際には付添って頂く事もあり、家族と一緒に悩み考えながらケアに取り組んでいる。また、本人と家族の繋がりが途切れない様支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や馴染みの場所の把握に努め、墓参りや地域交流を行っている。併設のデイサービスを利用している友人に会いに行ったり、友人が会いに来てくれたりしている。気軽に遊びに来て頂けるような環境づくりを心掛けている。また、夫婦での入居や、同じ町内同士、友人の関係を継続していけるような調整も行っている。	馴染みの美容院やラーメン店、受診帰りに「お焼き」「アイス」など、入居者の行きたい所には必ず行くようにしている。家族対応が困難な方には墓参りにも付き添っている。隣接のデイサービスセンター利用者との交流も継続し、本人の想いと共に地域との繋がりを大事にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	団らんの中では、入居者同士の関係性を配慮した環境づくりに努め、お互いが心地よく過ごせる様心掛けている。入居者が個々の役割を持ち、支え助け合いながら生活している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退居の際は、退院後の転居先の情報を集め、家族に提供し施設申込にかかわらず相談に応じている。自宅へ戻ったケースでは、居宅ケアマネと連携し在宅サービス利用へと繋げている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、言葉や表情などから真意を汲み取り理解できるよう努めている。意思疎通が困難な方は家族の協力も得ている。個々の思いや生きがいに繋がるものを見つけ援助している。年次目標では、課題設定、実践と修正、評価と期間を決め取組み、「ここで過ごせてよかった」と思ってもらえるよう心がけている。	会話の可能な方は直接本人に意向を確認し、重度の方は家族の思いをくみ取り、ケアプラン作成している。帰宅願望のある方は、モーターサイクルを用意してリハビリを頑張ってもらうなど、本人のやりたい事を支援することで、反応が良くなったり、日常生活動作の向上に繋がっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、在宅時の担当ケアマネ、家族や関係機関より情報を集めているが、本人との会話の中からも聞き取るように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録の様式を見直した事で、睡眠、排泄時間、体調の変化がより分かりやすくなり、職員の「気づき」を共有出来るようになった。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制を敷いており入居者の状況を把握すると共に、毎月のモニタリングでは、本人の思いを一番に考え話し合い、職員皆で情報を共有している。本人、家族の意見や看護師の助言を取り入れながら介護計画を作成している。	担当制であるが、ケア会議には職員全員が参加し、毎月モニタリングを実施している。全員が参加することで、きめ細かい情報収集や状態把握ができ、プラン見直しが可能となり、個別性のあるより良いプラン作りができています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や支援経過、モニタリング表に個別に記入し、申し送り簿を作成し、職員間で確認し話し合い共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズに応じて、固定観念にとらわれず、常に入居者の立場になって、いま必要な事や大切に思っている事を考え、冠婚葬祭など付き添いや送迎に対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方のボランティアや慰問、消防署、駐在所の協力を得られ、安心した暮らしを支援している。訪問理美容や商店を利用し地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する病院を受診できるようにしているが、必要に応じて看護師に相談し、検査データ、ポイント整理を行い、適切な医療が受けられる病院への受診を支援している。特に精神科受診では、スタッフ間で話し合い、慎重に受診へと繋げている。	経営者が看護師であり、系列事業所も看護師が多く配置されているので、医療の相談がしやすい状況である。基本は主治医受診であるが、病状変化により、家族の承諾を得て、病院を変更する時もある。地域の総合病院が協力病院である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理、助言や指示をしてくれる看護師を配置している。24時間連絡を取れる体制も整っており適切な受診、看護に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も定期的に職員が伺い、早期退院に向け担当看護師、家族と情報交換している。院内の地域連携室とも連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の指針を定め、契約時には十分な説明をしている。緊急入院時等の同意書を作成している。急変時の受診の判断は看護師が行い、医師や家族と協力しながら支援に取り組んでいる。	看取りの準備は整っており、入居時に家族へ説明している。看取りの実践はないが、家族からの要望があった場合は検討し、可能な限り対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成しており、全職員が周知している。また、普通救命講習Ⅱを全員受講している。施設内にはAEDを設置し、定期的使用方法を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いのもと年2回避難訓練を実施している。(夜間想定を含む)実施後は必ず振り返りの時間を設け話し合いを行っている。地域住民の協力を得られている。非常時に供え、食料・備品等準備している。	消防署立ち合いのもと、消防訓練を実施している。緊急連絡網は事務室に常備され、地域住民の協力もある。訓練後は評価し、次回の訓練に繋げている。震災に備えて準備もされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営理念を念頭に置くことと、BST生活向上委員会の取り組みを通して、個人を尊重した声掛けを行っている。個人情報については、契約時に細かく同意を得ているが、使用する際には再度確認している。	その人に合った方法で、他者に気づかれなようにトイレ誘導をしている。着替え時にも同様なケアを行っており、プライバシーに配慮した声掛けを職員間で常に話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を大切にし、入居者の心身状態を観察して、ドライブや買い物、行事や交流会参加などで、自己決定の場面作りを意識し、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の体調や精神状態に合わせ、本人の気持ちを尊重し個々のペースに添った生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容院の訪問サービスがあり、本人の希望に添ってカットしている。髪染めやパーマなどの要望にも対応している。季節や行事にあった服装のアドバイスも行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	検食表を参考に、入居者の好みや食べやすい調理方法を考えメニューに取り入れている。選択して頂く場面作りの提供も行っている。準備や片付けも力量に合わせ担当制にするなどして、一緒に行っている。	入居者の希望は海沿いの町だけに「刺身」が多く、週に1回はメニューに入っている。また近隣住民から、いただき物が多く、入居者と一緒に調理法を工夫して、美味しく食事している。食事の準備や後片付けは、やりたい方が多く当番制にして職員と一緒に楽しく行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の生活記録に食事量や水分量を記録している。特に夏場の水分補給に関しては、スペシャルと称して、水・塩・レモン・砂糖で飲料水を作り提供している。状態によっては、刻み食・ミキサー食・とろみ剤での対応も行っており、果物や栄養補助食品を取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、個々の力量に合わせて介助をしている。舌洗浄も行って頂けるよう声掛けしている。その人に合わせた歯ブラシ等使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日常的に職員同士で情報交換や記録する事で、トイレ誘導のタイミングを把握できる様努めている。本人の残された力を活かし、出来る限りトイレで排泄出来るように支援します。	職員間で情報交換や状態把握に努め、排泄パターンに合った時間にトイレ誘導をしている。リハビリパンツから布パンツになった方が多くおり、職員の励みになっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼るだけでなく、水分・食品量・乳製品や適度な運動・マッサージで自然排便を促すように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	併設している温泉での入浴を楽しみにされています。入浴前にバイタルチェックを行い、安心して入浴して頂けるよう支援している。希望に沿った日に入浴出来るように調整をしたり、状態に合わせて清拭・足浴・手浴の対応も行っている。	隣接するデイサービスセンターの浴室を利用して、午後の時間帯で入浴している。天然温泉であり、午後の時間に入浴することで、安眠効果がある。入浴拒否の方には、時間を変えたり、声掛けする職員を変えたりなど、工夫している。入居者は「湯治」感覚で楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	医師の指示により眠剤を服用する場合でも、常に話し合いを行い、日中の活動量を増やす努力や、足浴、温かい飲み物の提供、タクティールケアにより、安心して気持ち良く眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の説明書を生活記録にファイルし、いつでも確認出来るようにしている。薬の変更があった際には、注意して観察し記録に残し医師に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野を活かして、家事作業や畑作業が行える様にしている。本人の希望や状態別に合わせた外出先を選ぶなど、気分転換が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブなど、個々の希望や状態に合わせて外出・外食支援をしている。冠婚葬祭や墓参りにも家族と協力しながら積極的に出かけている。また、保育所のお遊戯会や運動会など、家族が連れていきたいが手がまわらないような状況にも、協力できる体制をとっている。	入居者の要望は常に応える様にしており、その方の希望に応じて、個別に外出支援を継続している。家族での送迎が無理な時にも、孫やひ孫の居る保育園や小学校に一緒に行くことで、家族からも喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の場合は、本人と家族の希望により、金額を決め所持して頂いている。使った金額を生活記録や小遣帳に記録している。家族には、毎月小遣いの残金を確認後、捺印して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をかけられるようにしている。その際は、プライバシーに十分配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広々としており、ゆったりくつろげるようになっている。全館光触媒の効果で、不快な臭いが残らないようになっている。室内の温度・湿度を管理し、快適に過ごせるよう支援している。そして、季節ごとに装飾を工夫している。	ホールは天井が高く、窓も大きくとても明るい。光触媒の造花がいたる処に置かれ、嫌な臭気がない空間である。また、水のカーテンがホールの中央にあり、癒し効果がある。明るい色の木材がふんだんに使われて、居心地の良い空間になっており、入居者と一緒に作った壁飾りも目を楽ませてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室に関しては、家具の配置を工夫しそれぞれの好みの場所で、くつろげるように配慮している。共同空間では、数個のソファを置き、気の合った人でくつろげる場所を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や、家族の写真を持って来て頂き、安心し居心地良く過ごして頂いている。家具の配置も、本人が使いやすいようにと工夫している。寝具は、本人に合わせたサイズや寝ごころを重要視し、必要に応じて交換をお願いしている。家族の方は大変な時もあるかと思いますが、スタッフは入居者さんの代弁者でありたいと考えている。	本人が落ち着いて過ごせるように、自宅から家具を持参したり、ベッドの位置も工夫されている。各居室にはトイレが設置され、その方の状態に応じてドアの交換を行うこともあり、理念の「その人らしさ」が表れている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーとなっており、廊下やホールには手すりを設置している。家具の位置や高さは、本人に合わせて使いやすいように工夫している。		